

2006年度（2007年3月期） 決算説明会



2007年5月16日
大正製薬株式会社
社長 上原 明

2006年度決算：概要



	06年度 実績	前年同期比 (億円)		対予想* (億円)
売上高	2,421	▲293	▲11%	+16
セルフメディケーション	1,495	▲253	▲14%	+10
医薬	926	▲40	▲4%	+6
営業利益	224	▲240	▲52%	+9
経常利益	249	▲248	▲50%	▲6
当期純利益	154	▲205	▲57%	▲21
EPS(円)	50.5			

*2007年1月31日発表予想

2006年度 国内市場の動向



セルフメディケーション事業

- 2006年度の一般用医薬品市場は若干のプラスに転じた(+0%)
 - 漢方製剤、整腸剤などが伸長
 - ドリンク剤、風邪薬等の主要薬効群はマイナス

医薬事業

- 医療用医薬品市場は▲0.5%
 - 経口抗菌薬は▲6%、注射抗菌薬は▲8%

(IMSデータ薬価ベース)

Copyright 2007 IMSジャパン(株)
IMS JPM 2007年3月 MAT
無断転載禁止

2006年度決算：売上高減少要因



(億円)

	売上高	前年比	
リポビタンシリーズ	733	▲180	食系を中心に在庫調整、出荷減
パブロンシリーズ	228	▲33	暖冬で需要期振るわず
リアップシリーズ	88	▲32	新規ユーザー獲得できず、市場もマイナス
OTC薬その他	242	▲4	コーラック、ヴェックスがプラス
リビタシリーズ	23	▲1	既存品の競合激化
大正富山医薬品	801	▲26	計画どおり、クラリス健闘
ロイヤルティ	14	▲17	想定どおり(クラリスロマイシンの米国での特許切れ)



利益減少の要因

	前年比 (億円)
売上高増減	▲293
SMG	▲253
医薬	▲40
売上総利益	▲249
販管費	▲8
営業利益	▲240

粗利益率 68.1%→66.0%*
(*返品調整引当金戻入・繰入後)

販管費率51.0%→56.8%
・研究開発費 +54億円
・販促費 ▲8億円
・広告宣伝費 ▲16億円
・人件費 ▲6億円

- 営業外では、富山化学の期間損益がマイナスとなり、持分法投資損失が増加した



利益大幅減少の要因

- 原価率の上昇
 - － 単体の原価率上昇 (+2.4pt)
 - ① 売上構成比の変化 0.9pt
 - ② 価格低下 0.9pt
 - ③ 操業度低下ほか 0.6pt
- 売上高販管費比率の上昇
 - － 研究開発費、大正富山医薬品の販促費の増加

2007年度連結業績予想



	予想 (億円)	前年比増減	
		(億円)	
売上高	2,405	▲16	▲1%
セルフメディケーション	1,494	▲1	▲0%
医薬	911	▲15	▲2%
営業利益	230	+6	+3%
経常利益	285	+36	+14%
当期純利益	175	+21	+13%
(参考)			
大正富山売上高	790	▲11	▲1%

2007年度の課題と展望



- セルフメディケーション事業
 - － 主カブランドの立て直し
 - リポビタンシリーズ新CM
 - 新製品
 - － 新規領域の拡大（スイッチOTCなど）
 - － 新規事業の育成（通販など）
- 医薬事業
 - － 営業力向上
（既存品の売上、新製品対応）
 - － 研究開発の強化

セルフメディケーション事業：新製品の動向



- 2006年度の新製品では、「リポビタンDマクシオ」「リポビタン11NEW」「パブロン鼻炎カプセルZ」「ヴィックスMドロップウメ」などが寄与
- 2007年度は10月以降、新製品発売が増える見通し
(スイッチOTCの発売も10月以降を期待)

<p><第1四半期> <i>からだ環境ダイエット(通販)</i> アイリスシリーズ</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p><第3四半期> リポビタンシリーズ パブロンシリーズ デントウェルシリーズ リビタシリーズ</p> <p style="text-align: right;">など</p>
<p><第2四半期> リポビタンシリーズ 外用剤 保健薬</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p><第4四半期> リアップシリーズ リビタシリーズ</p> <p style="text-align: right;">など</p>

医療用医薬品：研究開発



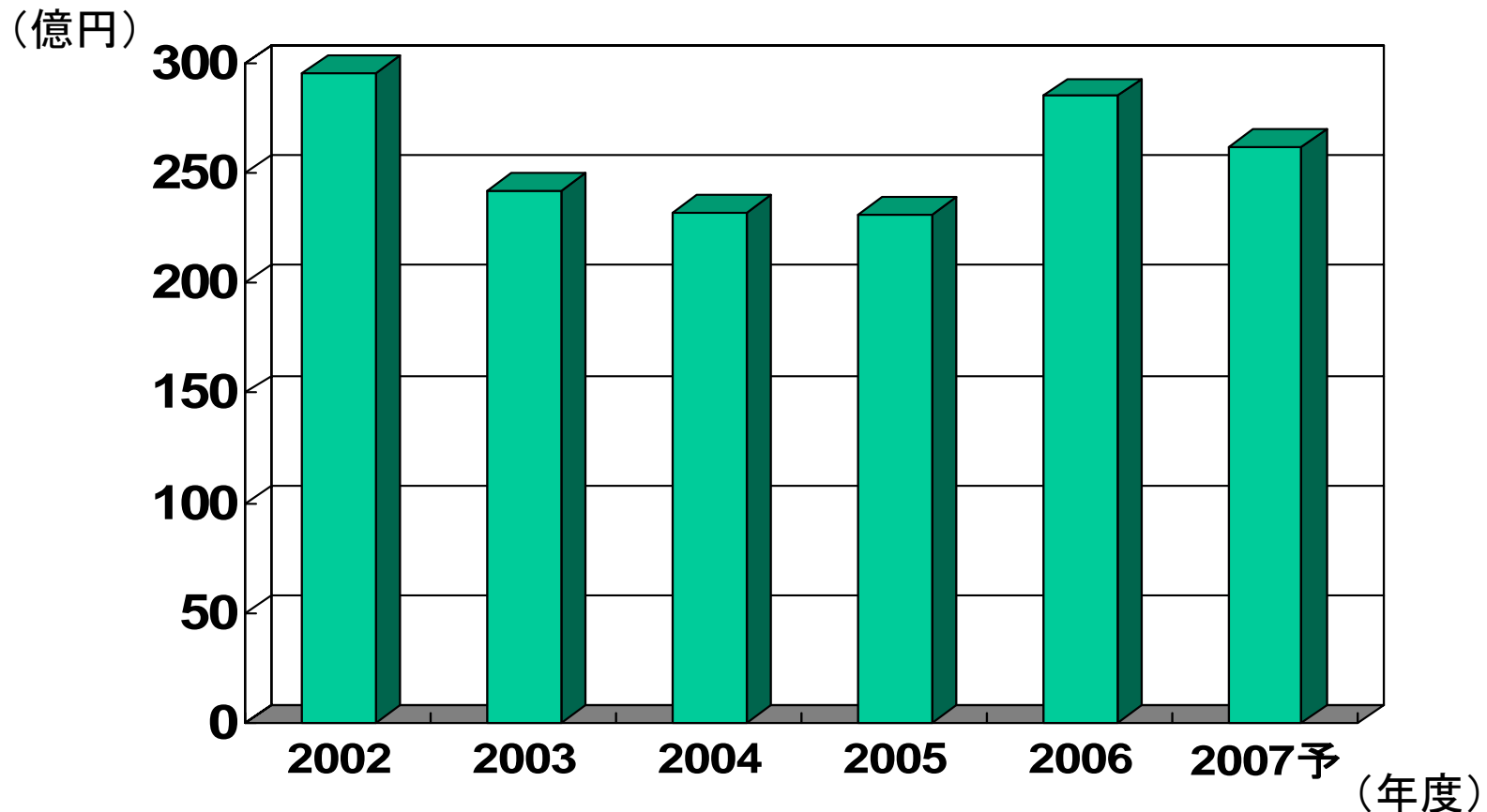
- パイプラインの状況
 - 導入により、パイプライン強化
 - CT-064(ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤)
 - TT-063(エスフルビプロフェン含有消炎鎮痛剤)
 - NM-702は海外導出先が決定
 - T-3811は申請中(2006年5月申請)
 - その他の開発品は概ね予定通りの進捗

研究開発費の動向

(含むセルフメディケーション事業)



- 2006年度は導入品の増加で膨らんだが、2007年度は微減の見通し



医療用医薬品：新薬パイプライン



医療用医薬品の開発状況（2007年5月15日現在）

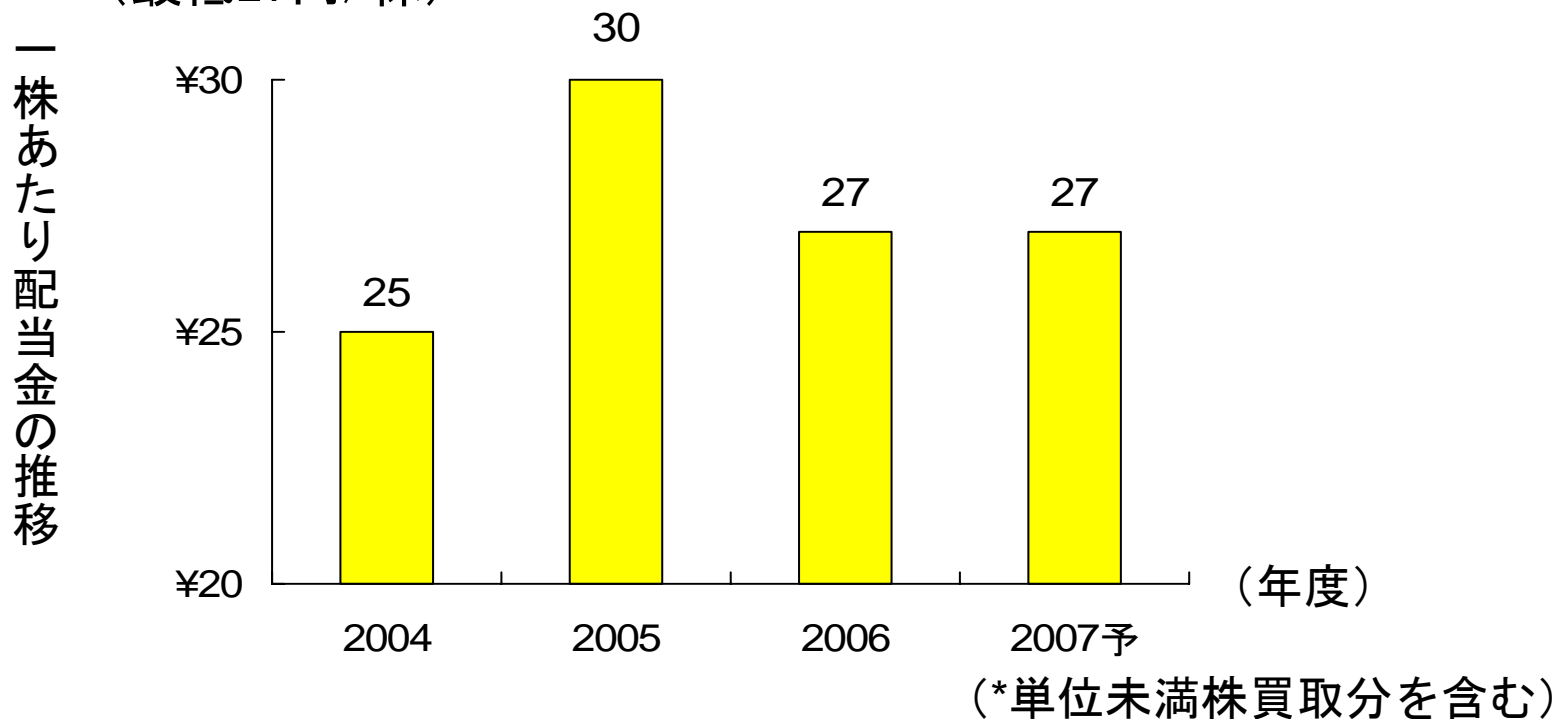
開発段階	製品名・開発コード	剤形	薬効・適応症	開発形態	オリジン	備考
申請中	T-3811	経口	ニュータイプ [®] のキノロン系合成抗菌剤	富山化学共同	富山化学	
フェーズ2/3	CT-064	注射	骨粗鬆症	中外共同	ロシュ	
フェーズ2	NT-702 (NM-702)	経口 (経口)	閉塞性動脈硬化症、腰部脊柱管狭窄症に伴う 間歇性跛行 (閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行)	日産化学共同 (日産化学共同)	日産化学 (日産化学)	(海外) ミルフォード [®] 社に導出*
	TT-063	外用	変形性関節症、肩関節周囲炎、筋肉痛等	トクホン共同	トクホン	
	CT-064	経口	骨粗鬆症	中外共同	ロシュ	
	NT-702	経口	気管支喘息	日産化学共同	日産化学	
	TS-033	経口	1&2型糖尿病	自社	大正製薬	日本と海外でP2
	TS-022	外用	アトピー性皮膚炎に伴う掻痒症	自社	大正製薬	
	パルクス	注射	腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行	自社	大正製薬/三菱ウェルファーマ	適応追加

* 米国ミルフォード社に対しNM-702の日本、韓国、中国、台湾を除く全世界での独占的な開発・販売権を供与(2007年5月7日発表)



株主還元

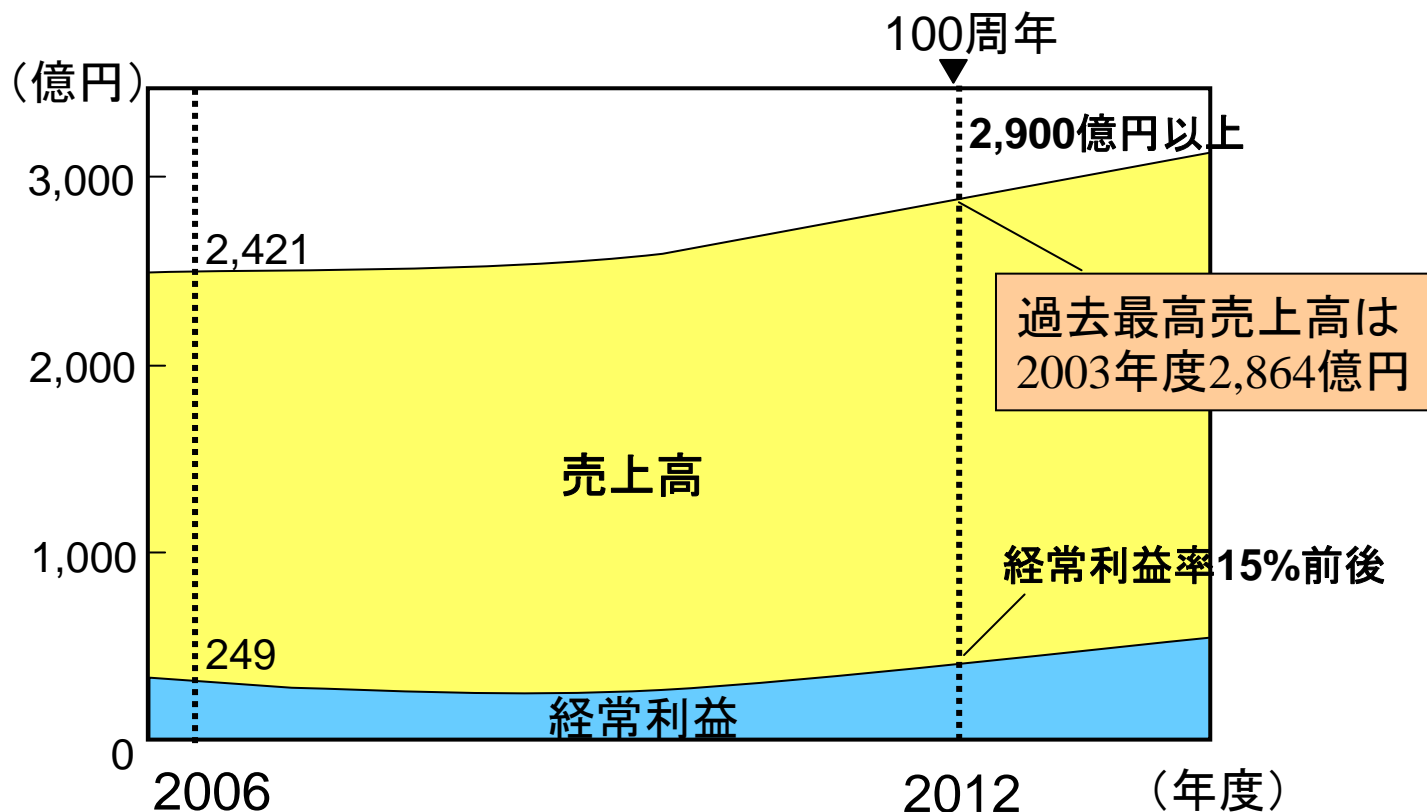
- 自己株式取得：06年度 1021.5万株*
 - － 弾力的に行う方針
- 配当：06年度は27円/株を維持、07年度も27円/株を予定
 - － 配当性向のメドである30%を超えても、安定的な配当を維持（最低27円/株）



中期連結業績目標



- 2012年度業績目標(2006年11月発表)は変更しない



セルフメディケーション：新規事業の進捗



・ 通販(大正ダイレクト)

- － 顧客ターゲットは40～50代女性、ターゲットをフォーカスすることで、他社と差別化
- － 3シリーズを展開
 - ナリッシュ(スキンケア、2006年3月)→ターゲット層の取り込み
 - からだ環境青汁(2006年9月)
 - からだ環境ダイエット(2007年4月)
- － 会員数は順調に増加中
 - ナリッシュ、青汁で10万名を達成、ダイエットの投入でさらに増加中、今年度末は20万名を目指す
- － 定期購入の比率が高い
- － 2012年度 顧客数100万人 売上高100億円を目指す